

北里大学  
同窓会  
福井県支部

# 会報

*No. 13*  
*2002. 10*



福井県支部ホームページ  
開設

URL <http://www9.ocn.ne.jp/~kitafuku/>  
E-mail [kitasato-fukui@arion.ocn.ne.jp](mailto:kitasato-fukui@arion.ocn.ne.jp)

## 目次

---

■ 支部HPを開設	清水賢涼	1
■ 北里大学同窓会だより	市川正明	2
■ 平成14年度支部総会・懇親会を開催		3
■ 北里柴三郎博士 — 偉大な業績と生涯(年譜) —		4
■ キノコがやめられない	川端 與一郎	6
■ 最近思うこと	生水 誠一	9
■ タイムカプセル	伊藤 善祐	9
■ 福井県支部ホームページ開設		11
■ 白金キャンパスの今(写真)		12
■ 会計報告		13
■ 雑感		14
■ あしあと		14

### 表紙写真：北里研究所医学館 — 明治村(愛知県犬山市)—

北里研究所本館は、北里柴三郎博士が大正3年(1914年)北里研究所創立の際に建てられました。  
大学創立20周年の記念事業として、昭和55年(1980年)10月に明治村に北里研究所医学館として移築され、末永く保存されることになりました。(平成14年9月撮影)

今、福井県支部は…

## 支部HPを開設

同窓会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃は当支部の活動に種々ご協力をいただきありがとうございます。ごさいます。

今年は支部創立から16年になります。創立の翌62年のバス旅行で行った明治村の写真を見ながら、昭和61年（1986年）の支部創立の年に生まれた末娘が高校生になり、あんなに小さい時があったのかと感慨に耽りながら、支部活動も毎年よく続けてやってこれたものだと実感しています。

支部活動を振り返ってみると、毎年度の事業計画は、3月に理事会を開いて決めています。例えば、総会・懇親会はどういう形でやるか、どうすれば一人でも多く参加してもらえるか、この形なら何時が参加しやすいか等を話し合いながら決めていきます。そうして日程が決まると、1ヵ月前に案内状が発送できるように準備します。ところが、本部からその年の会員名簿が送られてくるのが5月中旬過ぎなので、前年度会員名簿と照らし合わせてチェックするのに時間がかかり、案内状の発送がギリギリになってしまいます。

会報については、担当の伊藤理事の献身的な努力で、毎号すばらしいものが発行されています。しかし、これとて原稿を集めるのには苦勞しているようで、何かの機会を捉えてはネタ探しに余念がなく、出来映えに苦勞の跡が忍ばれます。

北里大学同窓会  
福井県支部支部長 清水賢涼

ところで、年来の懸案であった支部のHPが出来上がりました。支部の中では第1号で、同窓会本部のHPにもリンクされています。このHPも伊藤理事の非常な努力で出来上がりました。なかなか楽しめるすばらしい出来だと思っています。

これからは会報とHPで会員の皆様と連絡を取り合い、繋がりを保っていきたいと思います。その為に、このHPには支部専用のメールアドレスを設けたり、掲示板を利用していつでも皆様と連絡が取れるようにしていますので、積極的な活用をお願い致します。例えば、掲示板でサークル的な活動の仲間を募るとか、ゴルフ仲間を募るとか、講演会の案内を載せるとか、人を中傷するののでなければ何でもいいと思います。また、リンクも出来ますので、皆様の個人で作られたHPや、会社のHPをリンクしてください。

このように、新しい事にも取り組んでいますので、会員の皆様のご支援をよろしく願い致します。



平成14年度の福井県支部総会開催おめでとうございます。現在、清水支部長を中心に、こうして粛々と毎年地味な活動を続けておられることに対し、先ず敬意を表したいと思います。また、日頃は本部同窓会の活動にご支援、ご協力いただき感謝を申し上げます。

さて、今回は行事が重なり、貴支部総会に本部から役員が出席できず大変失礼致しました。その代わりと言っては申し訳ございませんが、本会報の紙面をお借りして最近の本部同窓会の活動状況及び北里学園の動きについて報告させていただき、その責を果たしたいと思えます。

先ず、本部同窓会は5月19日に定期総会を開催し、無事終了して平成14年度の活動を開始しております。一つ目の報告は、平成13年12月に5年毎の会員名簿を発行したことです。また、会員相互の情報交換を活発にしようと同窓会のホームページの充実を図っています。二つ目に、今年度も積極的に支部活動の支援を行いますので、大いに活動を企画して支部用助成金を有効に活用いただければと考えております。その他、今年度から学部同窓会活動の支援の一環として、会報の発行に対し補助することも始めております。

加えて、今年度の新しい取り組みとして次の二つの課題を挙げ、検討することとしました。一つ目は、同窓会運営の将来方向の検討です。ご承知のとおり、平成15年を目途に北里研究所と北里学園の法人統合の話が出ており、この統合問題に対し同窓会として今後の組織の在り方をどのようにしていくか具体化しようとプロジェクトを組織します。二つ目は、有限中間法人について勉強していこうということです。平成14年1月に施行された中

## 北里大学同窓会 支部担当常任理事 市川 正明

間法人法ですが、この4月に医学部同窓会が申請し、法人としてスタートを切ったと聞いております。そこで、本部同窓会においても、この法人化が本会にとってどのようなメリットあるいはデメリットがあるか検討することとしました。どうぞ、これらの課題に対し、皆様方からも忌憚のないご意見などをいただければ幸いです。



次に、学園の動きについていくつか触れておきたいと思えます。前述の両法人の統合問題ですが、当初の平成15年4月の時期がいくつかの解決しなければならぬ問題が出てきたということで、先送りされるということです。一方、学部の動きについて簡単に触れると、先ず薬学部にて6年制の話が出ております。獣医畜産学部では、ジャビという資格認定機構の国際資格の取得を目指しカリキュラムを検討しております。また、医学部に立派な動物棟が完成したとのこととす。

さらに、夢のある話？をしたいと思います。現在進行している白金キャンパスの再開発計画の終了後に、北里柴三郎記念館の建設が予定されております。この施設の中に同窓会をはじめPPAなどの事務局が入れることになり、今まで以上に会員にも利用の幅が広がることが期待されます。ただし、たくさんの寄付金を集める話が出てくることになるでしょうがね。

最後に、これから福井県支部ならびに会員各位のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。



## 平成14年度 福井県支部 総会・交流会を開催

平成14年6月8日 (金)

平成14年度総会・懇親会が福井市内の厚生年金会館で開催されました。昨年度は勝山市の福井県立恐竜博物館や越前大仏に出掛けましたが、今年度は平日の夜にしたいという希望からこの日に決まりました。あいにく本部からの出席はありませんでしたが、県内在住の会員11名が出席されました。

この会場は、ちょうど16年前の昭和61年6月22日に福井県支部設立総会を開催した場所で

あり、当時が懐かしく思い出されました。今回は、福井県支部のホームページを開設するに当たり、参加者に見ていただきました。全国支部では初めてのホームページ開設とあって、内容や構成に力を入れたつもりですが、いかがでしょうか？

今回も出席者が少なかったのが残念ですが、来年こそ広く呼び掛けて一人でも多く出席していただこうと思っています。



伊藤善祐 佐藤幸子  
玉田安彦 奥井光子  
宮越伸治 川端與一郎  
糸井泰永 清水賢涼  
糸井麻佐 江島昌希  
木村麻佐 上田修志  
(敬称略)



# 北里柴三郎博士

## ● 偉大な業績と生涯

北里柴三郎は1853年に生まれ、熊本医学校でオランダ人医師マンスフェルトに出会い、医学の道を志した。更に、東京大学でドイツ医学を学び、日本の衛生行政に携わるべく内務省衛生局に奉職した。そこでは、当時流行したコレラや赤痢の原因調査等を手掛け、やがてドイツのローベルト・コッホのもとへ留学した。ここで北里は破傷風菌の純粋培養に成功し、引き続き破傷風毒素に対する免疫抗体を発見することによって血清療法を確立した。

帰国した北里は福沢諭吉らの援助によって伝染病研究所を創立し、自らペスト菌を発見した後、志賀潔の赤痢菌発見を指導した。一方、土筆ヶ岡養生園を開設して結核の研究と治療に当たった。

大正3年11月、伝染病研究所が文部省に移管されると同時に所長を辞任し、私立の北里研究所を設立した。その後、恩賜財団済生会病院、慶應義塾大学医学部、日本医師会、日本医学会等の設立に尽力するなど、一生を通して日本の医療行政や医学教育の基礎作りに貢献した。



## ■ 年譜

嘉永 5年 1852	● 12月20日 (1853年1月29日)、父惟信・母貞の長男として、肥後国阿蘇郡小国郷北里村 (熊本県阿蘇郡小国町字北里) に生まれる。
慶応 2年 1866 13	● 熊本に出て田中司馬 (儒者、医者) の塾に入門。
明治 2年 1869 16	● 12月、細川藩の藩校時習館に入寮、学問・武芸に励む。
4年 1871 18	● 2月、熊本の古城医学所 (明治5年に熊本医学校と改称) に入学、蘭医マンスフェルトに師事。
8年 1875 22	● 11月、東京医学校 (明治10年東京大学医学部と改称) に入学。
16年 1883 30	● 4月、男爵松尾臣善の二女ていと結婚。
	● 4月、東京大宇医学部卒業、内務省衛生局 (局長 長興専齋) に奉職。
18年 1885 32	● 11月、ドイツ留学を命ぜられる。
19年 1886 32	● 1月、ベルリン大学ローベルト・コッホ研究室に入り細菌学の研究を開始。
22年 1889 36	● 気腫疽菌の純粋培養に成功。
	● 破傷風菌の純粋培養に成功。
23年 1890 37	● 破傷風免疫体 (抗毒素) を発見。血清療法を確立。
	● 12月、肺結核治療法研究のため皇室から全壱千円を下賜され留学期間を更に1年延長。
24年 1891 38	● 8月、医学博士 (文部省) の学位を受ける。

明治25年	1892	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5月28日、帰国、内務省衛生局復職（11月）。</li> <li>● 10月、福澤諭吉、森村市左衛門らの援助を受け芝公園内に私立伝染病研究所を設立。</li> <li>● 11月30日、大日本私立衛生会の委嘱を受け伝染病研究所の所長に就任。</li> </ul>
25年	1892	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12月、勲三等瑞宝章を賜る。</li> </ul>
26年	1893	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 9月、我が国最初の結核サナトリウム「土筆ヶ岡養生園」を開設。（北里研究所病院の前身）</li> </ul>
27年	1894	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月、伝染病研究所を芝区愛宕町に移転、ジフテリア抗血清の製造及び使用を開始。</li> <li>● 5月、ペストの原因調査のため流行地香港に派遣される。</li> <li>● 6月、ペスト菌を発見。</li> </ul>
32年	1899	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3月、伝染病研究所が国立（内務省）に移管され、4月、所長に就任。</li> </ul>
34年	1901	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 11月、東京医会を設立、会長に就任。</li> </ul>
39年	1906	53	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4月、日本連合医学会会頭。</li> <li>● 9月、帝国学士院会員。</li> <li>● 11月、伝染病研究所を白金台町（現東京大学医科学研究所所在地）に移転。</li> </ul>
41年	1908	55	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6月、恩師ローペルト・コッホ博士夫妻を迎える。</li> </ul>
大正 2年	1913	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本結核予防協会を設立、副会頭に就任。</li> </ul>
3年	1914	61	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 11月5日、伝染病研究所が内務省から文部省に移管され所長を辞任。</li> <li>● 即日、私立北里研究所を設立、所長に就任。</li> </ul>
4年	1915	62	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10月、恩賜財団済生会病院初代院長に就任。</li> <li>● 12月、北里研究所所屋竣工、開所式を行う。</li> </ul>
5年	1916	63	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 8月、生地熊本県小国町に「北里文庫」を寄贈。</li> <li>● 11月、府県の医師会を統合し大日本医師会を設立、会長に就任。</li> </ul>
6年	1917	64	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4月、慶応義塾大学医学科（大正8年医学部と改称）を創設、初代科長に就任。</li> <li>● 12月、貴族院議員を拝命。</li> </ul>
7年	1918	65	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10月、私立北里研究所の財産一切を寄付し社団法人北里研究所を設立、所長に就任。</li> <li>● 11月、社団法人大日本私立衛生会会頭。</li> </ul>
9年	1920	67	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3月、医師会令による東京府医師会を創立、会長に就任。</li> <li>● 6月、中央衛生会会長。</li> <li>● 11月、学術研究会議会員。</li> </ul>
12年	1923	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 9月、極東熱帯医学会会頭。</li> <li>● 11月、医師会令による日本医師会を創設、初代会長に就任。</li> </ul>
13年	1924	71	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2月、男爵を賜る。</li> </ul>
昭和 3年	1928	75	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5月、慶応義塾大学医学部長を辞任、顧問就任。</li> </ul>
6年	1931	78	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6月13日、午前5時脳溢血により麻布自邸で逝去。</li> <li>● 勲一等旭日大綬賞、従二位を賜る。</li> <li>● 6月17日、青山斎場で葬儀、青山墓地に葬られる。</li> </ul>

北里柴三郎博士の肖像画ならびに序文と年譜は、（社）北里研究所の許可を得て掲載させていただきました。北里研究所（北里柴三郎記念室）ホームページのURLは下記のとおりですので、是非アクセスしてご覧ください。なお、記念室は東京・白金キャンパスの北里本館内にあります。

URL <http://www.kitasato.or.jp/kinen-shitsu/>

## キノコがやめられない

私は、「キノコ」のことを始めて、かれこれ10年ばかり経つ。これを始めた動機は2つある。これは「実益を得ること」と「仕事上の必要性」である。実益を得ることについては、私はよく山へ行き（登山を楽しむのではなく、自分の山に植林してある林木の世話に出掛ける。）、この時いろいろのキノコをよく見かけ、毒成分がなく食べられるものなら大いに食べたいという気持ちは常日頃からあり、このことから是非ともこれの名前を覚えたいと思っていた。また、仕事上の必要性ということについては、私は保健所での食品衛生の仕事が長く、キノコの食中毒の調査も時々行い、また秋を中心に一般の方から保健所へいろいろのキノコが持ち込まれてその同定依頼があるが、それらが全く分からず、お手上げ状態で菌がゆさがあつたということもきっかけである。これらのことから、是非とも野生キノコの名前を正しく覚える必要性が大いにあつた。ということで、キノコのことを始めたのである。

さあ、このことを始め出し、その勉強はキノコの図鑑を買いあさり、実物との照らし合わせである。野生キノコには非常に沢山の種類がある。我が国には約5,000種類あるという。その内、名前が付けられているのは、約2,000種類と言われている。これだけの数があれば、よく似たキノコも多くあり、図鑑との照らし合わせだけではどうしても自信がもてない。キノコ中毒は怖い。間違つて毒キノコを食べてしびれたら大変。ましてやあの世へでも行ったら最悪である。このように、キノコの同定にはどうしても自信がもてないでいたところ、「福井きのこ会」の存在を知つた。この会に入ると、『キノコ観察会』というのがある、自由に

川 端 與一郎

(昭和48年畜産学部獣医学科卒業)

キノコを採つた後、指導者の方にこれらを同定してもらい、こうすることにより覚えていくのである。私は早速入会して実地に学んだ。キノコ



は同じ種類のもので、生えている環境により微妙に異なる。しかし、同定されたキノコを何度も何度も脳裏に焼き付ける訓練により、その数を少しずつ増やしていった。図鑑だけではキノコは正しく覚えられない。図鑑は一つの目安を付けるに過ぎないであろう。

キノコの種類を沢山覚えると、それが発生するシーズンが待ち遠しい。キノコは種類により年中発生するが、秋に圧倒的に多く出る。私は春の山菜採りも好きで楽しくやっているが、秋のキノコ狩りはさらに楽しい。また、山菜を採る方は多いが、キノコ狩りをする方は非常に少ない。であるから、見つけたキノコは私の独り占めになるのである。たまらんですわ……。

キノコでも、おいしいものとそうでないもの



古株(木の種類は不明)に発生した野生のクリタケ





コナラの木に発生した  
野生のナメコ



人工栽培により発生した  
マンネンタケ(霊芝)

がある。おいしいものは、まずはホンシメジ、ハタケシメジ、ナメコ、ナラタケ（本県の嶺北では「モタセ」という。）、ヒラタケ、ムキタケ、ブナシメジ、マイタケ、アブラシメジ、ヌメリササタケ、クリタケ、エノキタケ、スギヒラタケ等で、おいしくないものは、ホコリタケ、オオイチョウタケ、タマウラベニタケ等である。また、よく見掛ける毒キノコは、ツキヨタケ（本県の嶺北では「ブナ太郎」という。）、カキシメジ、クサウラベニタケ、ニガクリタケ、オオワライタケ、サマツモドキ、ツチスギタケ、テングタケ等があり、気を付けなければならない。

キノコはいろいろと料理することができる。味噌汁に始まり、けんちん汁、含め煮、つけ焼き、天ぷら、バター炒め、ホイル焼き、炊き込みご飯、おろし和え等である。しかし、私には最もおいしくいただけると思うのは「鍋もの」である。採れたての新鮮な野生キノコをできるだけ種類多く（10種類くらいあると理想的である。）と、これに旬の野菜（ネギ、春菊、白菜等）とお肉（できれば、キジ、ヤマドリ、イノシシ等の野生鳥獣の肉が望ましい。）を鍋に入れて煮、味噌で味を整えて食べる。この場合、砂糖と化学調味料は使用してはいけない。作った鍋ものは、いろいろのキノコの旨み成分がミックスされて抜群の味となる。これ以上のおいしくて野性味あふれる料理が他にあるのだろう

かと思うくらいである。これまた、たまらんですわ……。

私は、キノコの人工栽培もやっている。人工栽培できるキノコは、現在約30種類ある。人工栽培とて大きく分けて2種類ある。1つは、施設の中でキノコの発生しやすい環境（温度、湿度、風量、明るさ等）を作って栽培する方法であり、もう1つは、キノコの菌を原木に打ち込み、野外に伏せ込み自然条件の元で発生させる方法である。現在、スーパーマーケット等で年中販売されているのは、前者の方法によっている。私は後者の方法による人工栽培をしている。この方法により発生させたキノコは、味、香り、菌触り、それにボリューム等はほぼ野生のものに近いものとなる。現在栽培をしているキノコは10種類ほどある。シイタケに始まり、ナメコ、ヒラタケ、クリタケ、ムキタケ、タモギタケ、マンネンタケ（霊芝）等である。大部分が初秋から晩秋にかけて発生するが、発生し出したら連日その発育状況を観察し、そして最高の状態のものを採る。これは誠に楽しいし、食べて野生のものに比べて勝るとも劣らなく最高においしい。こうなると、スーパーマーケット等で販売されているものは一応種類に応じたキノコの格好をしてはいるが、味、香り、菌触り、ボリューム等のどれをとっても頼りなく、私にはとっては見向きもしたくないのである。野生のキノコはスーパーマーケット等のものに比べて、

味、香り、菌触り、ボリューム等どれをとっても優れており、すなわち貫禄がある。私がやっている人工栽培によるキノコも同じく貫禄がある。ほんとうです。

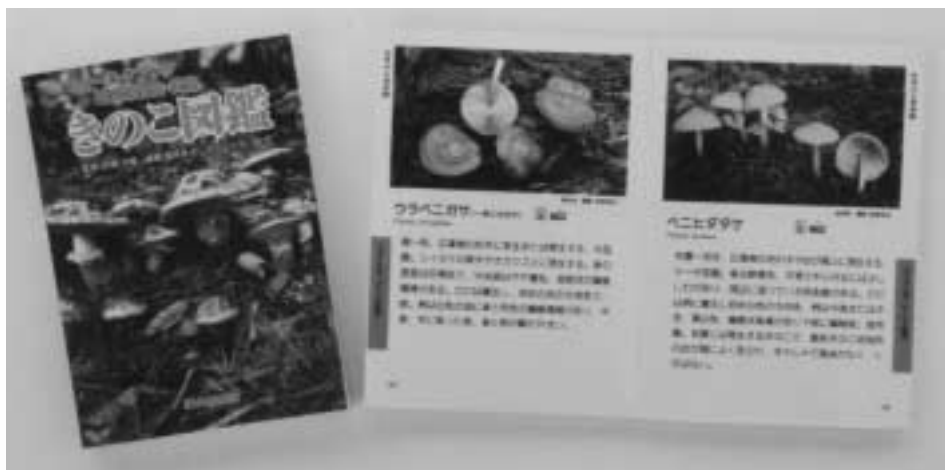
私は2年前に「きのこアドバイザー」の資格を取った。今の世何でも資格というものがあるものだ。このような資格があるのを全く知らなかった。キノコのことにのぼせてやっていくうちに、このような資格があることも知って、その取得に挑戦した。この資格は、野生キノコの同定をすることを主とし、その他キノコに関わるいろいろなことをアドバイスすることのできる資格である。この資格を取得するには経験が重視され、そして選考されて、約1週間茨城県の研修所での缶詰による研修が必要であった。費用も約20万円ばかりかかった。しかし、一応資格を取得したが、まだまだ分からないキノコが多い。今後ともさらに勉強が必要である。現在、この資格を取得している者は、全国で約150名、福井県においては6名である。

現在福井県においてきのこアドバイザーの資格を有している者6名で、「フィールドブック 福井の里山・奥山 きのこ図鑑」というタイトルの本を今年(平成14年)4月に福井新聞社から発刊した。(発行部数は3,000部)ポケット判で小さい本であるが、執筆から発刊まで約



1年かかった。夜なべして書いたカラーイラストも大変に苦勞したが、特に12回におよぶ校正に時間がかかり、本を発刊することの難しさを十分に味わった。自分にとっては人生のよい思い出となるであろうし、また読者には少しでもキノコの知識を身に付けていただけるものとなってもらえることを祈ってやまない。[この本は、消費税込みで1,680円。県内の書店で絶賛発売中]

キノコは実に楽しい。私はキノコがやめられない。キノコのことが病みつきになり、今後さらに深入りすることでしょう。キノコと共に、一度しかない人生を最高に楽しく過ごしたいと考えています。



## 最近思うこと

月日が経つのも早いもので、社会に出て9年と半年を迎え、この原稿を書くに当たり改めて歳を重ねたことを実感させていただいています。

大学入学当初は、これから始まる最短でも6年間の学生生活を耐えられるか、とても不安でありましたが、“案ずるより生むが易し”とはよく言ったもので、あつという間の学生生活でした。

学生生活もいろいろありましたが、一番の思い出といえば、5年次から配属となった毒性学研究室（男子4名、女子3名）での生活です。誰もがよく研究に没頭し、無我夢中で毎日を送ったことが懐かしく思い出されます。とにかく、何事にも「若さ」と「勢い」で取り組み、何でも出来たと思っています。ちなみに、男子は4名とも地方公務員、女子2名は動物病院の勤務獣医師、1名は会社員となっています。

話は大きく変わりますが、社会人となり学生時代とは違い、自由に使えるお金が出来た

### 生水 誠一

（平成6年獣医畜産学部獣医学科卒業）

ことから、興味のあるパチンコおよび競馬にチャレンジしました。当初、周りからは、「給料の殆どを注ぎ込むようになるぞ」との忠告を受けましたが、不思議



なことに、たまにたしなむ程度で、無我夢中となるような魅力も感じられず、かつ、のめり込む「勢い」もないのです。自分でも不思議でした。

最近、趣味の一つであるゴルフ番組を観ているうちに、少しでも上手になりたいと思うようになり、クラブを新調したところです。学生時代のような「若さ」はありませんが、無我夢中となるような「勢い」を持ち、取り組んでいきたいと思う今日この頃です。もちろん、仕事にも生かしていきたいですね。

## タイムカプセル

皆様は、“将来の自分の姿”を想像したことがありますか？

ちょうど20年前の1982年4月（当時私は29歳）所属していた勝山J.C（青年会議所）でタイムカプセルを製作しました。その主旨は、『20年後の自分の姿を想像し、今日を大切に

### 伊藤 善祐

（昭和50年衛生学部衛生技術学科卒業）

生きよう！』でした。勝山市内の境内に埋めたのですが、この場所なら歳月が経っても変わらないと考えたからです。

あれからちょうど20年経った2002年4月20日、そのタイムカプセルを掘り起こし、開封後当時のメンバーが一同に会してセレモニー



セレモニー会場



塩ビ製のタイムカプセルと中身  
(手前にあるのが、20年後の姿を書いた用紙)

を開催しました。メンバー65名のうち5名が病気や交通事故で他界されており、まず今自分が元気であることに感謝しました。

カプセルといっても、実は塩ビ製の太いパイプでした(写真)。その中には、当時の新聞と20年後の自分の姿、勝山市、日本、そして世界の姿を想像して書いた用紙が保管されていました。それらが全く色褪せていないことに驚きました(防湿剤を入れて、しっかり密封したからでしょう)。

ここで、設問の中から私が書きたいいくつかを紹介したいと思います。予想が当たっていたのは、当時は結婚未定でしたが「勤務を続けており、子どもは2人」、「市町村の合併問題(広域行政)の本格化」「京福電車の廃線(まさか事故がその発端になろうとは思わなかったが…)」「国鉄は全国をブロックに分けて完全民営化」「デノミは行われぬ(しかし、消費が行き詰まり不況が長く続くデフレスパイラルが起こった)」「大地震の発生」「教育制度の変革(学校週5日制になった)」など…。逆に、予想に反していたことは、「癌の治療法が確立されている」「米・ソ二大国支配が継続している」などでした。

内容は、社会や国際問題などの固い設問ばかりで、子どもたちが描く夢のようなことは書かれていませんでした。しかも、悪いことを予想していたのは、当時の話題や世相の影響があったからだと思います。この年には、日

航機の羽田沖墜落、ホテル ニュージャパンの火災、フォークランド紛争など今でも記憶に残っている出来事がありました。また、500円硬貨が発行されエアロビクスが登場、松田聖子「赤いスイートピー」、岩崎宏美「聖母(マドンナ)たちのララバイ」、細川たかし「北酒場」や映画「E.T」がヒットしたのもこの年でした。そして、この20年間にバブル経済がはじけ、日本が長期的な不況に陥ってしまうとは誰もが想像しなかったでしょう。

50歳になった今、“毎日を少しでも有意義に過ごしたい”と思っています。そして、こうしていられるのはJ.Cに所属していた15年間に、いろいろな勉強や経験ができたからだに感謝しています。そのような機会を作ってくれた先輩や友人の恩は、一生忘れずにいたいと思っています。

さて、皆様がこれから20年後を目指してタイムカプセルを埋めるとしたら、

どのような“夢”を描いて

何を書いて入れますか？

何を記念に入れますか？

そして、誰に見せたいですか？

## 福井県支部ホームページ開設

—支部設立15周年を記念して—

福井県支部が設立されてから15年が経った昨年、これを記念してHPを開設する計画が出されました。今年3月の支部理事会で承認され、完成したHPを6月に開催された総会で見てください、8月に開設の運びとなりました。

\*全国支部では初めてのHP開設で、同窓会本部のHPとリンクされています。



- C  トップページ (写真：福井県立恐竜博物館)
- O  支部の紹介 (設立の経緯、地図、会員数の推移)
- N  支部の歩み (設立時からの年譜と写真)
- T  行事の紹介 (総会、懇親会の内容と写真)
- E  支部会報 (会報の全文をPDF文書で紹介)
- N  キャンパス (大学キャンパスの現在の様子と写真)
- T  お知らせ・リンク (行事などの案内、リンクコーナー)
- S  掲示板 (皆様からのメッセージ欄)



福井県支部HPの中から

URL <http://www9.ocn.ne.jp/~kitafuku/>  
E-mail [kitasato-fukui@arion.ocn.ne.jp](mailto:kitasato-fukui@arion.ocn.ne.jp)  
(URLのkitafukuは北里大学同窓会 福井県支部の略)

これからは支部の歩みや会報を追加するほかに、大学キャンパスの紹介などを掲載していきたいと考えています。また、掲示板を設けましたので、学生時代の思い出や同窓会へのご意見や伝えたい事など、何でも結構ですから気軽に投稿してください。

さらに、同窓生の個人・会社のHPへのリンクコーナーを設けましたので、ご希望の方

はご連絡ください。皆様からのご提案や情報をお待ちしております。

このHPを福井県のみならず全国の同窓生に見ていただき、コミュニケーションのお役に立てていただければ幸いです。せっかく開設したHPですから、末永く続けられようとして頑張っていますので、皆様のご支援をよろしくお願い致します。(担当：伊藤善祐)

\* \* \* \* \*

## 白金キャンパスの今

創設時のA、B、C、D号館は取り壊され、駐車場になりました。  
昔の製造棟とテニスコート跡に北里研究所病院が建てられました。  
\*これらの写真は、同窓会本部より提供していただきました。



3号館(旧E号館)の屋上から見た  
2号館(旧H号館)のシンボルタワー

# 会計報告

## 平成13年度決算

平成13年4月1日～14年3月31日

### ● 収入の部

科目	予算額	決算額	増・減(▲)
前期繰越金	73,913	73,913	0
年会費	70,000	70,000	0
通信費援助金	20,000	22,200	2,200
総会開催祝金	50,000	50,000	0
雑収入	50	67	17
合計	213,963	216,180	2,217

☆通信費援助金は、総会案内の発送件数に応じて同窓会本部から援助されるものです。  
平成12年度より200円/人になりました。  
☆雑収入の内訳は預金利息です。

## 平成14年度予算

平成14年4月1日～15年3月31日

### ● 収入の部

科目	予算額
前期繰越金	83,946
年会費	70,000
通信費援助金	20,000
総会開催祝金	50,000
雑収入	20
合計	223,966

### ● 支出の部

科目	予算額	決算額	増(▲)・減
名簿関係費	20,000	17,732	2,268
会報関係費	50,000	49,990	10
総会費	30,000	24,916	5,084
懇談会費	30,000	20,177	9,823
会議費	20,000	17,199	2,801
慶弔費	0	0	0
事務費	5,000	2,220	2,780
事業費	0	0	0
(小計)	(155,000)	(132,234)	
予備費	58,963	0	58,963
事業用積立金	0	0	0
次期繰越金	0	83,946	▲83,946
合計	213,963	216,180	▲2,217

### ● 支出の部

科目	予算額
名簿関係費	20,000
会報関係費	50,000
総会費	30,000
懇談会費	30,000
会議費	20,000
慶弔費	0
事務費	5,000
事業費	50,000
(小計)	(205,000)
予備費	18,966
事業用積立金	0
次期繰越金	0
合計	223,966

■ 会費を納めていただきありがとうございます。福井県支部の運営は、皆様からの会費ならびに参加費によって行われています(会報及び会員名簿は、名簿に記載されている全員の方々に送付されています)。今後ともよろしくお願い致します。

年額 2,000円/人(ご夫婦では 3,000円)  
〔郵便振替〕 00710-8-24950 北里大学同窓会 福井県支部

## 雑感 ■■■■

最近、いろいろな職種でリスク・マネジメントという言葉が使われるようになりました。しかし、相変わらず医療事故や贈収賄、企業の不正処理などが後を絶ちません。そして、ちょっとした油断や不祥事が、企業の存続さえ揺るがす事態を引き起こしています。“後悔先に立たず” 今や、自分は自分で守らなければならない時代になってきました。

さて、今年の8月に知人に頼まれてパソコンのウイルス対策のために上京しました。パソコンを利用すればするほど、忘れがちなのがセキュリティ対策です。2～3年前なら考えも及ばなかったIT環境ですが、一方では凶悪なコンピュータ犯罪が蔓延しています。ウイルス、不正侵入、情報漏洩の対策は、どれも苦い経験をしないと(したくはないですが…)、その必要性が分からないものです。“転ばぬ先の杖” 気掛かりな方は、さっそく対策を講じてみてはいかがでしょうか。



## あしあと (編集後記)

- 5月の連休を利用して福井県支部のホームページを作成しました。自分のホームページを作成したいと思っている方が多いのでは？ パソコンの知識と経験、それにサポートしてくれる人がいれば、それ程難しいことではありません。皆様もチャレンジしてみてもいかがですか。
- 同窓会事務局から白金キャンパスの写真を送っていただきました。学生時代を白金で過ごされた方は、その変貌に驚かれたと思います。研究棟や病院がびっしりと建ち並び、カメラアングルに相当苦労されたのではないのでしょうか？
- この会報は、今回で通算13号となりました。これからはホームページの更新も併せて行ってまいります。いつも話題や情報探しに苦労していますので、思い出や旅行記、趣味の事などを是非寄稿してください。お待ちしております。
- 過日、20年前に埋めたタイムカプセルを掘り起こしました。アツという間の20年間でしたが、当時が懐かしく思い出されました。この間、同窓会活動を継続できたことに感謝しています。
- 「同窓会って何だろう？」と時々思うことがあります。それは、同窓生という絆であり連帯感でしょうか？ 会報やホームページを作成していると、「このようなつながりもいいものだな！」と実感し、励みになっています。これからも、同窓会活動にご支援をよろしくお願い致します。

〈伊藤 記〉

北里大学同窓会  
福井県支部  
会報第13号

### ■ 編集

伊藤善祐 江島昌希  
竹下人美

### ■ 発行日

平成14(2002)年10月15日

### ■ 発行責任者

清水賢涼